



即配を可能とする新たな経済

「ギグ経済  
(クラウドソーシング)」

アーバンシステム管理(株)

坂田和哉  
2019年

# 目次

ギグ経済(クラウドソーシング)とは

ギグ経済拡大を支持する哲学的変化

人工知能(AI)とギグ経済の融合(技術的变化、経済的变化)

ギグ経済が影響を及ぼす産業(MaaS市場など)

AIによる予測配送システム

予測配送システムとギグ経済とAIの融合による即配の実現

首都圏物流拠点の不動産価値

# ギグ経済(クラウドソーシング)とは

ギグエコノミー(米国ではギグエコノミーが一般的だが、日本ではクラウドソーシングと呼ばれることも多い)とは、インターネットを通じて単発の仕事を受注する働き方や、それによって成り立つ経済形態のこと。これは、2015年頃から米国で頻繁に使われるようになった経済概念で、ネット仲介で宅配や配送、配車サービスの運転手になったり、ネット経由で企業からデザインやサイト制作、コンテンツ制作、ホームサービス、旅行業務、総務業務などを受注したりというように、非正規労働で一回一回仕事を請け負う就業形態の広がりを指す。

一般にギグエコノミーは、個人の働き方が多様化した一つの経済形態であり、仕事の仲介業者(プラットフォーム提供者)は、人間が特定の組織に縛られることなく仕事を提供する。その一方で、受注者側(クラウドワーカー)には、働き方に自由があるものの、安定した待遇や労働者保護の仕組みなどで解決すべき問題もまだ多い。



哲学的変化、技術的变化、経済的变化の3つの軸でサポートされるなら、ギグ経済は社会に大きな影響を引き起こすイノベーションとなる可能性が高い！！

過去に社会に本当に大きな影響を引き起こしたイノベーションは、哲学・技術・経済の3つの軸の全てにおいて支持されたイノベーションである。どれか一つでも欠けると、ある程度の影響止まりとなっている。

参考)

なお、本用語の「ギグ(gig)」とは、元々はジャズやロックなどで、それほど親しいわけではないミュージシャン同士が、音合わせを兼ねて、その場限りの演奏(単発ライブ)を試しにやってみることを意味し、それが転用されて「単発の仕事」という意味で広く使われるようになったもの。

# ギグ経済拡大を支持する哲学的変化

心理学者アブラハム・マズロー(元米国心理学会会長)によると、人の欲求は以下通り段階的に推移する。今後、自己実現欲求の社会的濃度が色濃くなることが予測される。最近の個性重視の社会的傾向からも、その予兆が既に現れている。

- 1) 生理的欲求(衣食住の充実)
- 2) 安全欲求(安心、安定な暮らし)
- 3) 社会的欲求(組織への所属、仲間の獲得)
- 4) 尊敬欲求(他者からの尊敬／評価の実現)
- 5) 自己実現欲求(自己創造性／自律性の実現)



自己実現欲求型の社会はライフ・ワークバランスの多様化を促進し、ギグ経済の拡大を支持する可能性が高い

# 人工知能(AI)とギグ経済の融合 (技術的変化、経済的変化)

## 技術的変化

- 1) 量子コンピューターの実用化により人工知能(AI)の能力が加速度的に進化
- 2) 人工知能(AI)の加速度的な進化により将来の需要と供給を予測が可能となる  
(2015年のプレゼン資料参照)
- 3) 将来の需給に必要な労働力のマッチングをギグ経済(クラウドソーシング)にて実現
- 4) それにより、将来の需給のミスマッチの解消を実現

## 経済的変化

- 5) 将来の在庫と労働需給の非効率性の解消が企業のコスト効率(在庫・労働コスト)の改善を促進し、企業の採算性の向上を実現
- 6) クラウドワーカーの労働時間効率の改善
- 7) 結果として企業サイドの競争力を高め、労働サイドにも労働の柔軟性(多様性)を高め双方の参入者の増加を促進

# ギグ経済が影響を及ぼす産業

- 1) 米国で拡大を始めているギグ経済だが、まだまだ途上。  
しかし、哲学的変化、技術的变化、経済的变化の3つの軸でサポートされる可能性が高いギグ経済は大きなイノベーションを引き起こす可能性がある。  
今後、急速な拡大が予測される。
- 2) 今後、ギグ経済の影響が拡大する産業は、配送、宅配、配車(タクシー)、総務業務、旅行、ホームサービス、その他。  
特に宅配・配送・配車産業は人口知能(AI)と融合することで飛躍的に拡大する可能性が高い(2015年のプレゼン資料参照)。

現在、米国で実際にギグ経済を活用して成功している企業

アマゾン: 配送

MaaS Global社: シェアリング「Whim」

ウーバー: 配車(タクシー)、配送

デリバラー: 配送

タスクラビット: 職業仲介

エアビーアンドビー: 宿泊施設仲介

BreezeWorks: 総務業務

アマゾンホームサービス: ホームサービス

日本でギグ経済を活用している企業

**MaaS市場(2030年に国内で6.3兆円、2050年に全世界で900兆円規模に急拡大予想): 次世代移動サービス**

クラウドワークス: 職業仲介

トヨタ・ソフトバンク: 「モネテクノロジーズ」

ランサーズ: 職業仲介

リフト: 配車(タクシー)

助太刀: 職人紹介

楽天: 「楽天 超ミニバイト」

セルート: 配送

アマゾン、ウーバー他

# AmazonがAIにより描くロジスティックスの究極形を示す「予測配送システム」の特許

米Amazonが、画期的なシステムの特許を米国内で取得した。「予測的な配送システム」と呼ばれるその特許は、これからのIT業界、流通業界、そして消費者の立場においても、新しいトレンドとなっていく可能性が高い。この特許「予測的な配送システム」は、顧客が注文する前に、予測に基づいて品物を出荷し、注文を行った時点で、すでに最寄りの拠点まで商品を配送している、というシステムである。現在のAmazonの配送システムと「予測的な配送システム」を比べてみると、この特許がいかに画期的なものかがわかる。

## 現状の配送システム

- 1) 顧客からの注文
- 2) 自社倉庫で品物に宛先のラベルを貼り付ける
- 3) 配送会社のトラックへ積み込む
- 4) 配送
- 5) 数日後に到着

## 予測的な配送システム

- 1) 予測出荷
- 2) 顧客の宛先近くのハブに配送し待機
- 3) 顧客からの注文
- 4) 配送
- 5) 当日到着

Amazonは独自に構築したビッグデータとAIを駆使することで、この「予測的な配送システム」を実現し、いつでも商品の当日出荷・当日到着が可能となるサービスの実現を目指す。



更にこの予測配送システムがギグ経済と融合することで究極の即配システムが実現可能となる(在庫・労働コストの莫大な圧縮メリット)

参考)

Amazonのデータ解析によると、注文してから商品到着の期間の長さ、キャンセル率の高さは比例している。また、商品到着の期間が長いほど、ユーザーはネットショッピングからリアル店舗でのショッピングに移行する、という傾向も報告されているという。つまり、Amazonにとって当日出荷・当日到着のシステムは、ネットユーザーの囲い込みに必要不可欠なシステムなのである。



# 予測配送システムとギグ経済とAIの融合による 即配の実現

1) 予測配送システム + 予測労働不足 = 即配実現は不可

2) 予測配送システム + 予測必要労働 = 即配実現は可能



予測配送システム + ギグ経済とAI = 2)の実現の可能性が高まる



AIとギグ経済の融合により即配の可能性は飛躍的に向上する可能性がある



# 首都圏物流拠点の不動産価値

AIとギグ経済(クラウドソーシング)の融合により即配の可能性は飛躍的に向上



物流拠点、特に首都圏の物流拠点(最終消費者へのアクセス拠点)の需要増



首都圏の物流拠点の不動産価値が上昇する可能性が高まる